

第49回 防災カフェ（Web）を開催しました。



身近な防災を地区防災計画につなげよう

ゲスト：久保 敏彦 さん

（日本防災士会 滋賀県支部 副支部長

滋賀県地域防災アドバイザー 防災士）

日時：2020年8月28日（金） 18:30～20:30

参加方法：自宅等から Web 会議システム（Zoom）による

「防災」というと、どうしても身構えてしまいます。さらに『地区防災計画』と聞くと、もっと他人事のように思ってしまうかもしれません。

「防災」をもっと身近なものにするために、「出来ることから始める、日頃の生活の中に防災のエッセンスを取り入れる」ことを一緒に考えました。



ゲスト：久保 敏彦 さん

災害が多発する日本列島に住む私たちには、「命を守る」ための防災・減災の取組が不可欠です。家具の転倒防止などの地震対策、食料や水などの備蓄、非常持ち出し品の準備など個人や家族でできる『自助』。しかし『自助』には限界があり、近隣の人達が協力して防災に取り組む『共助』、そのための「自主防災組織」が必要です。これは、災害発生時だけでなく日頃から次のような『災害に対する備えを行う』ものです。

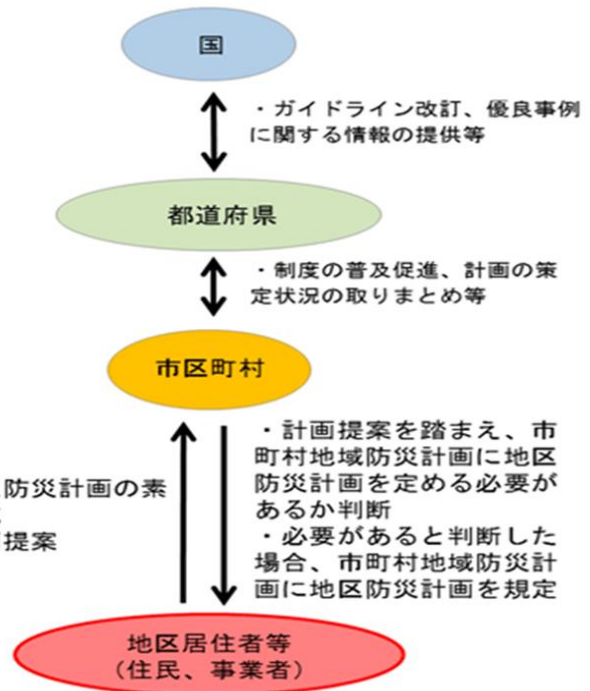
- ・安全点検（防災機材の点検、現状把握、防災マップの整備など）
- ・防災知識の普及啓発（防災関連の研修、図上訓練、啓発活動など）
- ・防災訓練の実施（訓練でできないことは災害時にもできません。）

さらに、災害時要援護者の避難支援があります。これには「自主防災組織」などの『共助』が大きな役割を果たすのですが、なかなか進んでいないのが現状だということでした。

これらを円滑に進めるために『地区防災計画』を作るのですが、最も重要なのは「ボトムアップ型」だということです。それは、地区の自然や社会特性を踏まえ、想定される災害を防災計画に盛り込み、地域の防災力を向上させ続けるために住民の自発的な活動が重要だからです。

○『地区防災計画』作成の5つの注意点

1. ハザードマップを活用して対象地区を示す
2. 基本方針、活動目標、長期的活動計画など基本的な考え方を示す
3. 自然特性、社会特性、過去の災害など地区の特性を把握する
4. 防災活動の体制や家庭での備えなど活動内容を明確にする
5. 災害の種類ごとに発災時の対応を明確にする

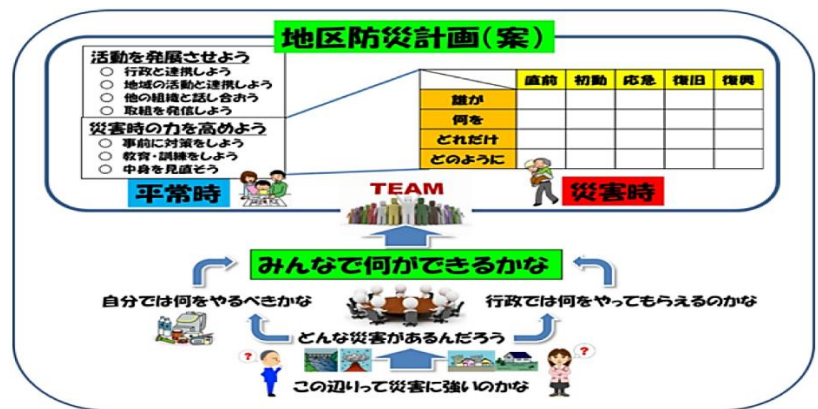


○『地区防災計画』作成の手順

1. 計画の対象範囲を決定する(既存のコミュニティを活用)
2. 地区の特性を知る(地区特有の災害の想像、ハザードマップの活用、被災経験(旧地名)の確認、図上訓練や防災街歩きで危険個所を発見、ワークショップなどで情報共有)

3. 活動内容と役割分担を決

定する(「誰が」「何を」「どれだけ」「どのように」していくのかを災害の局面(直前・初動・応急・復旧・復興)ごとに決めたタイムラインを作成。「地区防災計画」の完成前に実地研修して共有)



H26年内閣府(地区防災計画のガイドラインより)

※誰かが何かをしてくれるのではなく、自分は何ができるかを考えることが大切だということでした。

4. 計画案をまとめ、みんなで合意しておく(役員だけでなく、広く地域の住民に参加を求め、地域の実情に詳しい方の意見を聞く) はじめはA4版1枚でもOK
5. 市町村防災会議に提出する(提出前に計画案に従った訓練を行い、その結果による計画案の修正)

○『地区防災計画』の実行

作成した計画により、小学生・中学生・高校生を含めて防災訓練を実施して防災意識の普及と啓発をおこなう。

○『地区防災計画』の活用

防災訓練により計画の不整合を修正する。繰り返し実施することによって地域の防災力を向上させることができる。



防災ガイドマップの例(岡崎市中之郷町)

そのほかに、訓練によらなくても要支援者の移動、新型コロナウイルス感染症などさまざまな要因で生じる計画の不整合によっても修正が必要になるということでした。

防災訓練をより身近なものにするために、地区の運動会の種目の工夫などの行事の中に訓練的な要素を盛り込などして日常の中に防災を取り入れていくことがとても大事なことだということでした。

最後に、久保さんが『地区防災計画』について「計画の作成は通過点に過ぎない、日頃からできていないことは災害時にもできない、非日常の災害対策を身近に活用するものとして捉え、日頃から災害に備えましょう」という言葉が印象に残りました。

参加者の皆さんからチャットを使って多くの質問や意見がありました。その中から。

問：防災について地域での話し合いが重要なことはわかりましたが、こちらでは年1回のマンション総会があるだけです。どうすれば話し合いの機運を高めることができるのでしょうか？

答：「防災の話」と言っても集まれる方は少ないかもしれません。例えば、今の時期だったら、新型コロナウイルス感染症対策など、多くの人に今、関心高いことを話題にして集まってもらうことも一つの方法です。あるいは年1回のマンションの総会に何か防災のエッセンスを加えていただく、また総会以外に地域の運動会だとかがあれば、そういった様々な機会ごとに少しずつ防災の話を組み込むことで、防災をみんなで考え、話し合う機運を盛り上げていただければいいと思います。

久保さん、参加者のみなさん ありがとうございました。